

血液学的検査／血液凝固系検査

- 血球計算
- PT(プロトロンビン時間)
- APTT(活性化部分トロンボプラスチン時間)
- フィブリノーゲン

検査価格はp.70をご覧ください。

検査項目名	検体量	保存方法	所要日数
血球計算 ※1	EDTA全血0.5 ml ※2	冷蔵 ※4	~2
PT/APTTセット ※1	クエン酸ナトリウム血漿 0.5 ml ※3	冷凍 ※5	
フィブリノーゲン ※1	クエン酸ナトリウム血漿 0.3 ml ※3		
PT/APTT/フィブリノーゲンセット ※1	クエン酸ナトリウム血漿 0.8 ml ※3		

- ※1 検体の経時変化の影響(p.4)を最小限にするためできるだけ採血後48時間以内に検体が到着するようにしてください。
- ※2 (1)専用チューブ(無償提供品)でのご提出を推奨します。検体保管・耐久性に優れています。
(2)検体量は規定量入れていただくことを推奨します。専用チューブでは検体1mlに対する抗凝固剤が塗布されています。推奨される検体量(0.7~1ml)を入れることによって、抗凝固剤の影響による分画異常をより防ぐことができます。
(3)検体ご提出前に、十分転倒混和することを推奨します。抗凝固剤との混和不足により、結果に影響を及ぼすことがあります。
(4)PCR、クームス検査を同時にご利用の場合は、検体は別々にご提出ください。
- ※3 凝固検査用の血漿採取には、抗凝固剤として3.2%クエン酸ナトリウムを使用し、クエン酸ナトリウム:全血=1:9の割合で処理してください。それ以外の抗凝固剤は、測定結果に影響します。採血後直ちに抗凝固剤入りの容器に移し転倒混和の後、血球分離を行い、中間層が混入しないように血漿成分のみを検体送付チューブに採取してください。
- ※4 必ず冷蔵便をご利用ください(冷凍便不可)。
- ※5 必ず冷凍便をご利用ください(冷蔵便不可)。

検査説明および結果解釈

血球計算

血球計算では細胞の内部構造まで見分けるレーザー多角度偏光散乱分離法を用い、各細胞のサイズ、顆粒度、内容物、構造の情報を取得し網赤血球、白血球の5分類(実数および%)もあわせて行います。

参考基準値等 一覧

検査項目名	略号	参考基準値		単位	検査方法	注釈
		犬	猫			
赤血球数	RBC	5.39~8.70	7.12~11.46	M/ μ L	電気抵抗法	
網赤血球数	RET	10~110	3.0~50.0	K/ μ L	レーザー多角度偏光散乱分離法	
ヘモグロビン濃度	HGB	13.4~20.7	10.3~16.2	g/dL	非シアメトヘモグロビン変法	
ヘマトクリット	HCT	38.3~56.5	28.2~52.7	%	レーザー多角度偏光散乱分離法	
平均赤血球容積	MCV	59~76	39~56	fL		
平均赤血球ヘモグロビン量	MCH	21.9~26.1	12.6~16.5	pg		
平均赤血球ヘモグロビン濃度	MCHC	32.6~39.2	28.5~37.8	g/dL		
白血球数	WBC	4.9~17.6	3.9~19.0	K/ μ L		
好中球数	Neu	2.94~12.67	2.62~15.17	K/ μ L		
リンパ球数	Lym	1.06~4.95	0.85~5.85	K/ μ L		
単球数	Mon	0.13~1.15	0.04~0.53	K/ μ L		
好酸球数	Eos	0.07~1.49	0.09~2.18	K/ μ L		
好塩基球数	Bas	0~0.1	0~0.10	K/ μ L		
好中球(%)	Neu			%		
リンパ球(%)	Lym			%		
単球(%)	Mon			%		
好酸球(%)	Eos			%		
好塩基球(%)	Bas			%		
血小板概数	PLT	143~448	155~641	K/ μ L	電気抵抗法	※1

血球計算は自動分析装置を使用して実施していますが、自動分析装置の場合、検体の状態によって、主に白血球分画が算出できない場合があります。その場合は、コメントをつけて報告をしています。コメントの一部内容と詳細については、下記をご参照ください。

「白血球分画異常あり」

白血球分画異常が認められています。細胞形態変化※1・強い血小板凝集※2・強い乳びがある場合に、分画ができないことがあります。血液塗抹※3での確認をお勧めします。

「白血球形態変化の可能性あり」

白血球形態が若干変化している可能性があります。分画ができてカウントはできましたが、念のため結果が合っていることを血液塗抹で確認することをお勧めします。また、血小板凝集などの影響を受けることもあります。

「赤血球形態変化の可能性あり」

赤血球形態が変化している可能性があります。細胞形態変化・強い血小板凝集・強い乳びがある場合に、分画に影響を及ぼすことがあります。念のため血液塗抹での確認をお勧めします。

「血小板凝集の可能性あり」

血小板は時間の経過とともに凝集が進みます。血液塗抹での確認をお勧めします。※3

- ※1 細胞形態変化:白血球形態異常・赤血球形態異常・血小板形態異常や凝集が認められること(左方移動, 異常細胞, 有核赤血球, リンパ腫, 巨大血小板など)。そのほか, 抗凝固剤の不適切な比率, 転倒混和不足, 日数超過の場合にも細胞形態変化を起こすことがあります。
- ※2 血小板凝集:血小板は時間の経過とともに, 凝集が進みます。強い血小板凝集は, レーザーで細胞を読み込む際に影響を与える可能性があります。
- ※3 血液塗抹検査:経時的変化による影響を考慮し, ご提出いただいた検体での血液塗抹検査追加は承りません。院内で血液塗抹確認をするために, 血球計算ご依頼前に塗抹をご作成いただき保管することをお勧めします。なお, 病院様でご作成いただいた塗抹にて, 弊社血液塗抹検査のご依頼が可能です。

血液凝固

参考基準値等一覧

検査項目名	検査方法	参考基準値		単位	注釈
		犬	猫		
PT	凝固時間法/ 粘度変化感知方式	6.3~13.3	7.0~12.7	sec	※1
APTT		10.6~16.8	10.0~28.0	sec	※2
FIB		90~255	87~340	mg/dl	※3

- ※1 全血での放置および室温保存を避けてください。測定結果に影響します。
- ※2 血球混入, 溶血, 乳び検体の場合, 測定結果に影響する可能性があります。
- ※3 薬剤治療中は測定値に影響することがあります。ご使用中の薬剤製品の添付文書の詳細を参照してください。

ご依頼時の注意点

- 以下のご場合はご依頼をお受けできない場合がございます。
指定の条件をみたしていない検体
 - 検体材料
 - 検体量
 - 動物種
 - 保存輸送状態
 - 採取日から弊社到着までの日数
 - など